

小・中学校

平成11年度

教育研究員研究報告書

へき地教育

東京都教育委員会

平成11年度
教育研究員名簿

市町村名	学 校 名	氏 名
八王子	八王子市立長池小学校	大川 優
青梅	青梅市立第六小学校	加納 隆雄
青梅	青梅市立西中学校	高梨 和也
あきる野	あきる野市立東中学校	松元 敏秀
瑞穂	瑞穂町立瑞穂中学校	○宮岡 豊
檜原	檜原村立檜原小学校	◎涌井 弘子
奥多摩	奥多摩町立小河内小学校	阿部 憲一
大島	大島町立野増小学校	吉澤 淳
八丈	八丈町立末吉小学校	西堀 洋子

◎全体世話人

○副世話人

担 当

東京都多摩教育事務所西多摩支所 指導主事 對馬 伸一郎
同 上 高橋 武郎

目 次

I 研究主題設定の理由	1
II 研究のねらい	2
III 目指す児童・生徒像	2
IV 研究の仮説	2
V 研究の全体構想	3
VI 研究の内容	
<検証事例1 小学校第6学年 社会「おたあジュリア」>	4
「地域に伝わる、『おたあジュリア』の話を調べることを通して、 歴史的事象を身近なものとしてとらえ、自ら学ぶ意欲を高める指導の工夫」	
<検証事例2 小学校第6学年 社会「戦国時代の青梅」>	8
「地域の歴史を調べ、発表する活動を通して、 自ら学ぶ意欲を高め、学ぶ力、表現力を高める指導の工夫」	
<検証事例3 小学校第5学年 社会「炭ってすごい」>	12
「炭焼きの体験活動を通して、地域を愛し大切にしようとする 心情を育て、学ぶ力、表現する力を高める指導の工夫」	
<検証事例4 中学校第1学年 国語「伊豆大島と八丈島への旅」>	16
「パソコンを効果的に使った発表活動を通して、 自ら学ぶ意欲を高め、表現する力を高める指導の工夫」	
<検証事例5 中学校第2学年 理科「回路を流れる電流」>	20
「導入及び教材の工夫と体験的な実験によって、 生徒の学ぶ意欲を高める指導の工夫」	
VII 研究の成果と今後の課題	23

研究主題 体験的な活動を生かし、児童・生徒 の生きる力を育む指導の工夫

I 研究主題設定の理由

1 生きる力について

第15期中教審第一次答申が、これからの教育の在り方を生きる力の育成へ焦点化した。へき地校（島しょ・多摩西部山間地域校）においては、素直で純朴、かつ穏和で、与えられた課題に真剣に取り組む子どもが多い一方、自分で課題を見付け解決することが苦手で、自分の考えを表現し周りの人と意見を交換することが不得手な子どもも多い。また、身近な自然に触れる機会が減少し、地域への関心や愛着が希薄になってきている。これらの実態から、へき地学校の子どもたちに身に付けさせたい生きる力について、以下の3点のように考えた。

- ① 自ら課題を見付け、よりよく問題を探究できる力
- ② 人とかかわりの中で自分と他人の考えを大切にしながら共に高め合うことができる力
- ③ 地域の自然や文化を理解し、地域社会の一員としての自覚をもって行動できる力

各研究員の所属する学校では、子どもの実態や地域性はそれぞれに異なり、教師が子どもに身に付けさせたい力も異なるが、我々が取り組むべき共通の課題もまた少なくない。各校それぞれの子どもたちの実態を考慮しながら、これらの力を育むための指導方法について研

究を進めていくこととした。

2 生きる力の育成について

生きる力を育むためには、子どもたち一人一人が課題設定から解決までを、自分の力で、あるいは友達と協力して成し遂げる過程が大切である。そこで、体験的な活動を学習過程の中に積極的に取り入れることにした。特に、社会の変化に対応し生きて働く力を身に付けたり、人とのかかわりの中で自分を高めたり、地域を理解したりするためには、子どもたちが多様な体験をすることが極めて効果的であると考えた。そして、地域の特性を生かしながら、課題発見と探究のある学習や、周りの人と高め合う学習を進めることによって、子どもたちが地域を理解し、地域社会の一員としての自覚をもって行動できると考えた。

その際、教師が子どもの発達段階を考えながら、体験活動を取り入れ、継続的な指導を行うことによって、段階を経て育んでいくことが必要である。また、学校全体での取り組みや、地域社会や家庭との連携も考えていくことが必要である。

以上のことから、へき地教育部会では本年度の研究主題を「体験的な活動を生かし、児童・生徒の生きる力を育む指導の工夫」と設定し、各校の実態を考慮した授業実践を通して研究活動を進めていくこととした。

II 研究のねらい

児童・生徒一人一人が、学ぶおもしろさや感動を味わい、自ら考え判断し、主体的に問題解決していく態度・能力を育てる指導の在り方について考察し、研究仮説の有効性について検証していくことをねらいとする。

III 目指す児童・生徒像

本研究において目指すべき児童・生徒像を次のように考えた。

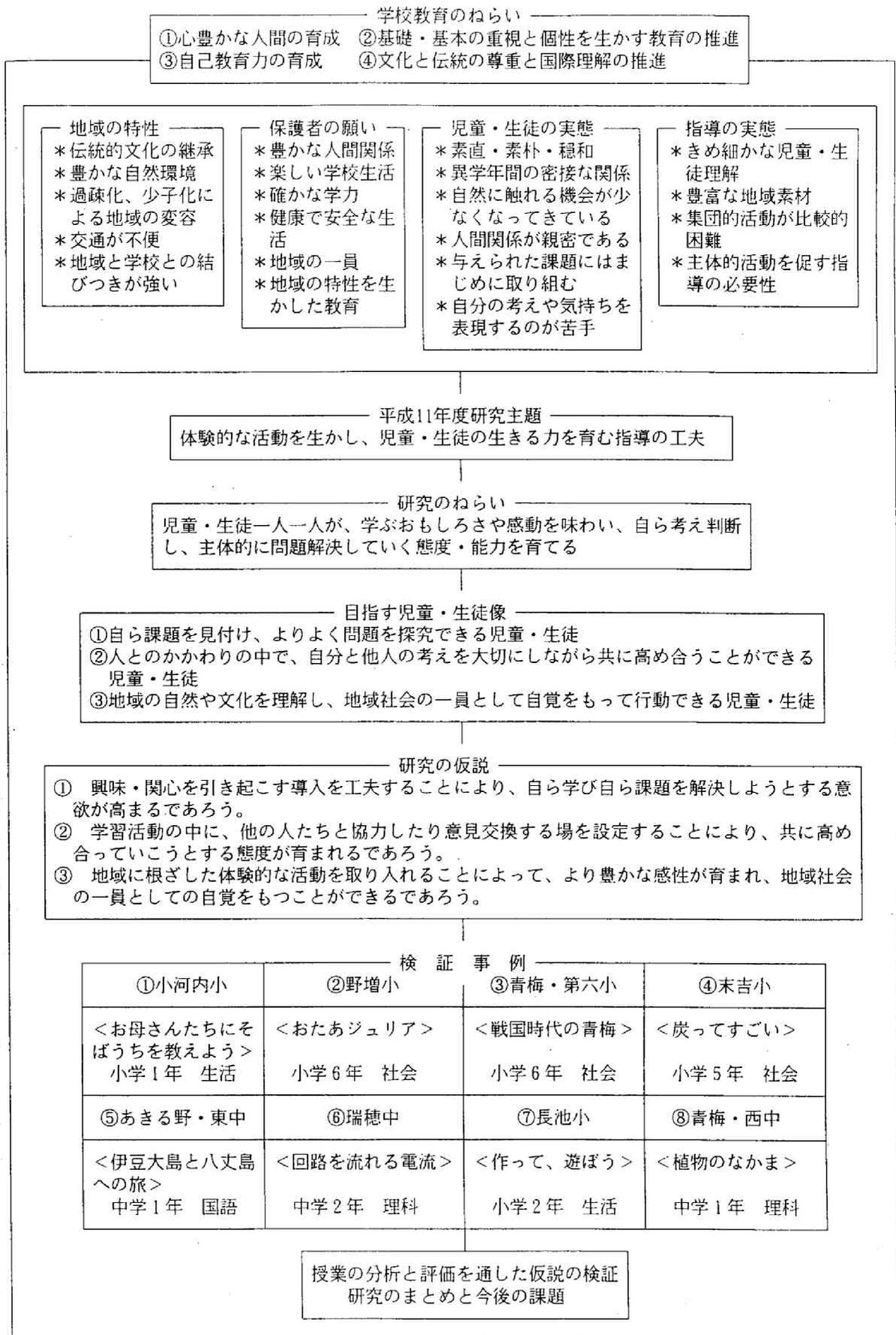
- ① 自ら課題を見付け、よりよく問題を探究できる児童・生徒
- ② 人とのかかわりの中で、自分と他人の考えを大切にしながら共に高め合うことができる児童・生徒
- ③ 地域の自然や文化を理解し、地域社会の一員として自覚をもって行動できる児童・生徒

IV 研究の仮説

上記、児童・生徒を育てるために、以下の仮説を設定した。

- ① 興味・関心を引き起こす導入を工夫することにより、自ら学び自ら課題を解決しようとする意欲が高まるであろう。
- ② 学習活動の中に、他の人たちと協力したり意見交換する場を設定することにより、共に高め合っていこうとする態度が育まれるであろう。
- ③ 地域に根ざした体験的な活動を取り入れることによって、より豊かな感性が生まれ、地域社会の一員としての自覚をもつことができるであろう。

V 研究の全体構想



VI 研究の内容

<検証事例・その1>

事例名 「地域に伝わる、『おたあジュリア』の話を調べることを通して、
歴史的事象を身近なものとしてとらえ、自ら学ぶ意欲を高める指導の工夫」

小学校 第6学年 社会

1 単元名とねらい

(1) 単元名

大島に伝わる「おたあジュリア」の話から信長、秀吉、家康の時代を調べよう。

(2) 単元のねらい

ア 大島に伝わる「おたあジュリア」の話から信長、秀吉、家康の時代に興味、関心をもち、戦乱の世の中がしだいに統一されていった様子や外国との関係をとらえることができる。

イ 絵画、地図、年表、資料集などをもとに、3人の武将の戦いや政治の様子を調べ、各自の歴史絵巻物にまとめることができる。

ウ 「おたあジュリア」のことを調べることから、身近な地域（大島）に対する理解と愛情を深めることができる。

2 単元を通した授業仮説

ア 「おたあジュリア」についての話を地域の人から聞いたり、地域の史跡を訪ね、調べたりする活動を取り入れることにより、児童は歴史上の事象を身近なものとしてとらえ、自ら課題を見つけて学習を進めるであろう。

イ 学習で得られた事柄を発表したり、相互の意見を交換したりする活動をすることで、学習をより深めることができるであろう。

ウ 地域に根ざした歴史教材を扱うことで、児童は、地域に対する関心を高めるとともに郷土への誇りをもつことができるであろう。

3 地域の様子

大島は、周囲を海に囲まれ、中心に活火山、三原山を有するため、独特な伝統・文化を育んできている。島民の多くは、観光業、漁業、農業に従事している。島しょのため交通機関が船、飛行機に限られ、これらは、台風、冬の季節風などの天候に左右されやすいという難点がある。

小学校は7校ある。ほとんどの学校で児童数が減少し、一人一人の児童に応じた指導はできるものの、ある程度の人数を必要とする学習や活動がむずかしい、という問題がある。

4 児童の実態

男子2名、女子2名の少人数の学級である。交友関係は、学年を超えた、縦のつながりが強い。年長の者が年少の者の面倒を見るということが、ごく自然に行われている。反面、幼児期からの固定化された関係が様々な学習や活動に影響をおよぼしてしまうこともある。個に応じた指導は行いやすい反面、話し合い活動は、話題の広がりなどの点で十分なものとなりにくい。

歴史学習に対する興味・関心は高まりつつある。児童に学習内容についての問題意識をしっかりとたせることが、その後の学習を充実したものにしていく上で大切なことであると考える。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点（7時間）

時	学 習 計 画	各段階における仮説	検 証 の 視 点
1	長篠合戦の絵画資料、VTRをもとに、3人の武将の戦いを調べ、全国統一への歩みについての自分なりの学習問題を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 視覚に訴える資料を活用することで、児童の興味 関心を引き出すことができ、学習内容への問題意識が高まるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を見て、歴史的事象に関心をもち、自分なりの言葉で学習問題を作ることができたか。
2	「おたあジュリア」の史跡を見学して、歴史的事象に関心をもち。	<ul style="list-style-type: none"> 大島の史跡を実際に見学することで、歴史的事象をより身近なものとしてとらえられるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 史跡見学から、歴史的事象を身近なものとしてとらえることができたか。
3	地域の人から「おたあジュリア」の話を聞いて、この時代の歴史的事象と大島とのつながりをとらえる。 (本時 第3時)	<ul style="list-style-type: none"> 地域教材を取り上げることで、歴史的事象をより身近なものとしてとらえられ、そのことが意欲的な学習につながるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おたあジュリア」の話を聞いて、疑問点を質問したり、自分なりの感想をまとめることができたか。
4	学習問題の解決に向けた調査をし『歴史絵巻物』にまとめる。 ◎信長が統一をめざす。 ↓	<ul style="list-style-type: none"> 自らが立てた問題の解決を図る活動を設定すれば児童は、意欲的に学習に取り組むであろう。 児童対教師、児童相互の意見交換の場を設定すれば、児童の考えは、より深まるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らが立てた問題の解決のために、意欲的に学習ができたか。
5	◎秀吉が大名をしたがえる。↓		
6	◎家康が江戸幕府を開く。 ☆「おたあジュリア」と大島。		
7	学習で得られたことを発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 発表の場を設定すれば、児童の歴史認識を深めることができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換をしながら学習の成果を発表し合うことができたか。

6 本時の学習指導

(1) 題 材 大島に伝わる「おたあジュリア」の話を聞こう。

(2) 本時のねらい

ア 「おたあジュリア」の話を聞いて、3人の武将の時代の歴史的事象を身近なものとしてとらえることができる。

イ 話し手に質問をする中から「おたあジュリア」に対する自分なりの考えをもつことができる。

(3) 本時の授業仮説

地域教材である「おたあジュリア」を取り上げることで、児童は歴史的事象をより身近なものとしてとらえることができ、学習への意欲がさらに高まるだろう。

(4) 展 開

	児童の活動	教師の支援・指導上の留意点	検証の視点(方法)
導 入	各自が調べてきたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 自宅学習の課題として「おたあジュリア」について家庭や地域の人にインタビューしておく。 発表内容から疑問点を整理して「おたあジュリア」に対する問題意識を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅で調べてきたことを意欲的に発表しているか。 <p>(観察)</p>
展 開	<p>「おたあジュリア」についての話を聞く。</p> <p>疑問に思ったことを講師に質問する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大島の歴史を研究している方を講師に招き、「おたあジュリア」についての話をしていただく。内容、時間などは、事前に打ち合わせておく。 導入で整理した疑問点を振り返らせて、質問する内容を考えさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったことを自分の言葉で質問しているか。 <p>(観察)</p>
ま と め	「おたあジュリア」についての感想をワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用意する。 本時で出てきた歴史的事象をおさえて次の学習への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの考えをまとめているか。 <p>(記述内容)</p>

(5) 評 価

「おたあジュリア」を通して、歴史的事象を身近なものとしてとらえ、3人の武将の時代に対する自分なりの考えをもつことができたか。

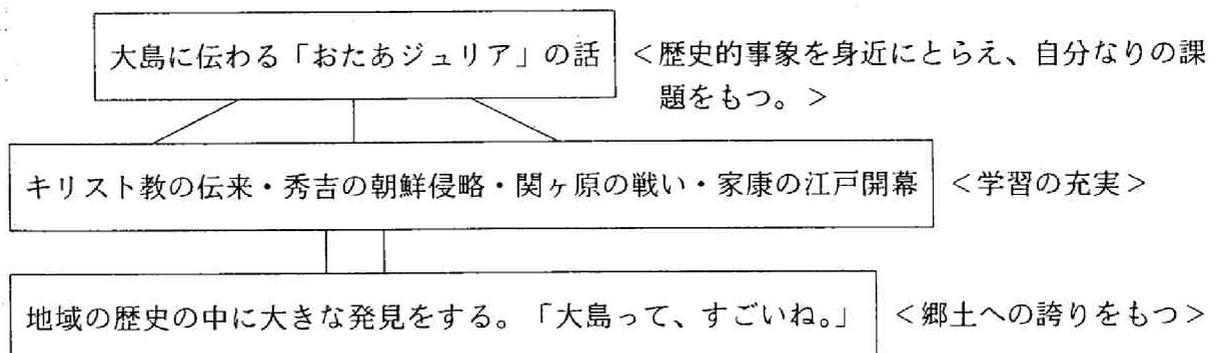
7 授業仮説に対する評価

*仮説1 <課題のもたせ方、導入の工夫について>と、仮説3 <郷土への誇り、地域社会に対する意識について>

今回の指導では、児童の日常生活と歴史的事象との距離を縮めることを最大の目的とした。社会科の授業で取り上げる、主な歴史的事象の多くは、大島という島しょの児童にとっては、かけ離れた存在である。したがって、歴史に対する興味・関心が薄く、また知識も多くはなかった。そこで、主な歴史的事象と大島という地域との関連を取り上げて教材化し、児童に提示することとした。

導入段階で、大島に伝わる「おたあジュリア」の話を取り上げ、各家庭での学習、史跡の見学、そして地域の人のお話を聞く活動を設定した。その結果、児童は、直接得られてくる「おたあジュリア」の人物像を通して、歴史を身近なものとしてとらえていった。さらに、大島に伝わる「おたあジュリア」の話を窓口として、キリスト教の伝来と3人の武将によるキリスト教対策、秀吉の朝鮮侵略、関ヶ原の戦い、家康の江戸開幕というように、「おたあジュリア」と主な歴史的事象との関係を知ることによって、課題意識が広がり、その後の学習が充実したものとなった。

また、わが国の歴史の中における、大島という地域が果たした役割をクローズアップしたことによって、児童から「大島って、すごいね。」という感想が聞かれた。普段、何気なく見過ごしていた地域の歴史の中に大きな発見をし、歴史学習の過程で、郷土への誇りにつながる意識を得られたことは、大きな収穫であった。



8 成果と課題

- (1) 地域に伝わる歴史教材を取り上げたことで、家庭や身近な人から直接、話を聞いたり、関係の史跡を実際に歩いたりすることができた。この結果、児童は、歴史的事象を身近なものとしてとらえることができた。
- (2) 歴史的事象に対する興味・関心が高まり、学習が充実したものになった。
- (3) 地域に伝わる、歴史的事象や史跡を調べることで、児童の地域に対する理解が深まり、「大島ってすごいな。」という、郷土への誇りをもたせることができた。
- (4) 今回の指導では、「おたあジュリア」を通して、信長、秀吉、家康の時代の様々な歴史的事象にせまったわけであるが、「おたあジュリア」の生涯についての学習が十分なものにならなかった。歴史学習全体の中で、どの程度、地域の歴史を取り入れていくか、内容、指導時間ともに、今後検討していく必要がある。

<検証事例・その2>

事例名 「地域の歴史を調べ、発表する活動を通して、
自ら学ぶ意欲を高め、学ぶ力、表現力を高める指導の工夫」
小学校 第6学年 社会科

1 単元名とねらい

(1) 単元名 「戦国時代の青梅」

(2) 単元のねらい

- ア 戦国時代の青梅の歴史を、日本の歴史と関連させて理解することができる。
- イ 戦国時代に三田氏が青梅の産業や文化の発展に果たした役割を理解することができる。
- ウ 見学したり調査したことをまとめ、発表することができる。

2 単元を通じた授業仮説

- ア ビデオ教材を活用するなど、導入を工夫することにより、自ら学び課題を解決しようとする意欲が高まるであろう。
- イ 工夫した発表会の場を設定することにより、共に高め合い認め合っていこうとする態度が育まれるであろう。
- ウ 地域の歴史を調べることにより、より深く地域を理解し、地域に誇りをもつことができるようになるであろう。

3 地域の様子

青梅市の最西端にある本校は、古くから関東の霊山として人々に尊崇されてきた武蔵御嶽神社をはじめとして、史跡や伝統芸能が多く残された地域にある。また、秩父多摩国立公園の中にあり、春秋には多くの観光客がハイキングや川遊びに訪れる、自然環境に恵まれた地域でもある。

本校は、本年度創立126年目の歴史をもち、保護者や地域の人々の多くが本校の卒業生である。地域の人々の本校に寄せる期待は大きく、学校行事などをはじめ本校の教育活動に理解を示し、大変協力的である。児童数213人7学級で、年々児童数は減少してきている。昭和30年青梅市との合併により現在の校名になるが、それまでの三田村立三田小学校の校歌が現在も校歌として歌われ、三田地区、三田の学校、三田っ子という言葉が日常的に使われている。

4 児童の実態

学区が広い割に児童数が少ないので、下校後友達同士で遊ぶことが少ない。学校での遊びが子どもたちの交流の中心である。保育園のころから同じ集団で過ごしてきているため、互いの理解がよくできていて、助け合い協力することはよくできるが、人間関係が固定化して切磋琢磨して高め合うことはあまりない。素直で言われたことはしっかりとできるが話し合いも特定の子の意見で決定してしまうことが多く、多様な見方や考え方があまりできない。

子どもたちは歴史の学習が好きである。特に、石器や土器に興味をもって、どのようにして石器や土器が作られたのか、川原の石で石器が作れるのかなどに興味をもって学習してきた。一学期には、青梅市郷土博物館の先生を学校に招いて、石器を実際に作ったり、石器の使い方などについて話を聞いたりしてきた。自分たちで調べてきたことを発表することにも興味をもって取り組み、平安時代の学習では、調べたことを劇や紙芝居にして発表したりした。

三田氏・海禅寺・鎧塚など本単元に関する知識は、名前は聞いたことがあるが、詳しいことはほとんど知らない。そこで、信長・秀吉・家康の三武将による天下統一という大きな流れを学習した上で三田氏を取り上げることにした。

三田氏に関する史跡や建物などを見学したりして調べることにより、戦国時代という歴史の新しい流れの中を生き抜くことができなかつた三田氏の姿や、三田氏が青梅の文化や産業の発展に果たした役割などを、子どもたちなりに理解させ表現させたいと願っている。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点（7時間）

時	学 習 計 画	各 段 階 に お け る 仮 説	検 証 の 視 点
1	戦国時代の青梅についてビデオを見て課題をもつ。 ●課題や発表の方法によって班を作り調べる計画を立てる。	●ビデオを見ることにより、概略を知り意欲をもって取り組むことができるであろう。 ●発表の方法を工夫することにより、調べる意欲が高まり、活動の見通しをもつことができるであろう。	●真剣にビデオを見ていたか。 ●自分なりの課題をもつことができたか。 ●発表の方法を考えることができたか。
夏 休 み な ど	グループで見学に行ったり、資料集めをする。	●グループで調べることにより、協力してよりよい発表をしようとする態度が育つであろう。 ●地域を調べることにより、地域の歴史に関心や理解が深まるであろう。	●グループで協力して調べることができたか。 ●必要な資料を集めることができたか。
2	愛宕神社の見学 ●郷土博物館の野村慎三郎先生から三田氏についてお話を聞く。	●博物館の先生の話聞くことにより、地域の歴史について意欲が高まり、より深く地域を理解することができるであろう。	●真剣に話が聞けたか。 ●進んで質問ができたか。
3 4 5	集めた資料をもとに、発表の準備をする。	●資料を有効に活用することにより、工夫した発表をすることができるであろう。 ●協力して作業することにより、友達の良さを理解し、お互いを尊重する態度が身に付くであろう。	●適切な資料を選び発表の工夫ができたか。 ●友達のよさを認め合い協力することができたか。
6 7	班ごとに発表し、聞き合う。 (本時 6時)	●発表会を開くことによりお互いのよさを認め合い、お互いを高め合っていくことができるであろう。	●友達の発表のよさを認めることができたか。 感想を書くことができたか。

6 本時の学習指導

(1) 題 材 「三田氏について発表しよう」

(2) 本時のねらい

ア 三田氏について調べたことや考えたことを発表することができる。

イ 戦国時代の青梅の様子や、三田氏が青梅地方の産業や文化の発展に果たした役割を理解することができる。

(3) 本時の授業仮説

ア 地域の歴史を学ぶことにより、地域をより深く理解し、地域に誇りをもつことができるであろう。

イ 協力して発表し合うことを通して、お互いを認め合い高め合うことができるであろう。

(4) 展 開

	児童の活動	教師の支援・指導上の留意点	検証の視点(方法)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の順序や課題の確認をする。 よい点をワークシートにメモしたり、デジタルカメラに記録することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 静かに話が聞けたか。(観察) メモやデジタルカメラの用意ができているか。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに発表する。 発表のよいところをデジタルカメラで記録する。 発表を聞き終わっての感想を記録をもとに発表する。(※一つの班が終了するごとに) 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の順序や進行をしながら、器機の操作などの補助をする。 必要に応じて発表の補足をする。 発表を聞く班が適切に記録できるように留意する。 発表のよい点を認め合えるよう留意する。デジタルカメラの操作の補助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史が理解できたか。工夫して発表できたか。協力して発表できたか。(観察) ほかの班の発表のよい点を記録できたか。(ワークシート・デジタルカメラ) ほかの班の発表のよい点を認めることができたか。(発言)
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入したことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも自ら調べてみようとする意欲をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに地域の歴史を調べてみようという意欲をもつことができたか。(観察・記述)

(5) 評 価

ア 三田氏について自分たちの考えをまとめて発表できたか。

イ 戦国時代の青梅の様子や、三田氏が青梅地方の産業や文化の発展に果たした役割を理解

することができたか。

7 授業仮説に対する評価

- *仮説1 <ビデオ教材を活用するなど、導入を工夫することにより、自ら学び課題を解決しようとする意欲が高まるであろう。>

導入に青梅市立第五小学校の榎本教諭が作成した、アニメーションビデオ「青梅の戦国時代」を活用した。そのアニメにより、三田氏についての概要をつかむことができ、さらに名前を聞く程度だった辛垣山とか鎧塚などや、身近にあっても特に関心がなかったお寺や神社などの史跡を、夏休み中にたずねてみようという動機付けができた。その結果、ほとんどの児童が夏休み中に調べに出かけ、写真やビデオに記録して発表に役立てるという活動につながった。

- *仮説2 <工夫した発表会の場を設定することにより、共に高め合い認め合っていこうとする態度が育まれるであろう。>

調べたことを発表する方法として、劇、紙芝居、テレビ番組、パソコンを使った絵本、新聞、パネルディスカッションなど、多様な方法をとった。その結果、同じ場所に調べに行っても、発表の方法によって、写真に撮ったりビデオに記録したりと、必要に応じて資料を選ぶということができていた。また、聞いている班がデジタルカメラで記録し、話し合いに活用するなどの工夫もした。こうしたことにより、単調になりやすい発表会が、バラエティに富んだ発表となった。

- *仮説3 <地域の歴史を調べることにより、より深く地域を理解し、地域に誇りをもつことができるようになるであろう。>

三田氏に関係が深い愛宕神社をたずね、郷土博物館の野村先生に三田氏が栄えた背景や、戦国時代の青梅の様子、さらに三田氏が文化財保護に大きな役割を果たしたことなどを話していただいた。このことにより、児童の関心を三田氏と北条氏の戦いだけでなく、三田綱秀ら、戦国時代に生きた人々の考えや生活にまで広げることができた。

8 成果と課題

- 三田っ子と言われ育ってきた子どもたちにとってはなじみの深い名前であるが、意外に知られていない三田氏という題材を取り上げたことにより、興味をもって学習に取り組むことができた。
- いろいろな発表方法で生き生きと活動し、視聴覚機器の活用も効果的であった。調べた資料も有効に活用されていた。
- 発表の方法が違うこともあって、真剣に発表を聞き感想を言うことができた。ビデオ・教材提示装置・パソコンなどの機器の活用も、興味を高めたり効果的な表現に役立っていた。
- 感想メモの書かせ方やデジタルカメラの操作などについては、よりきめ細かな指導があれば話し合いがもっと活発になり、より高め合う学習となったと考える。
- 北条氏や上杉氏など三田氏にかかわった人々について調べるなど、課題を広げることでより多様な見方や、日本の歴史の中に三田氏を位置付けた学習ができたのではないかと考える。

<検証事例・その3>

事例名 「炭焼きの体験活動を通して、地域を愛し大切にしようとする心情を育て、
学ぶ力、表現する力を高める指導の工夫」

小学校 第5学年 社会科

1 単元名とねらい

(1) 単元名 「炭って すごい」

(2) 単元のねらい

ア 伝統的技術を生かした工業は、原料や土地条件、技術などを生かしていることを理解し、製品のもつ意味について考える。

イ 自らの課題に基づいて、学習したことを友達同士で交流し、分かち合うことにより表現意欲を高め、お互いを尊重し合う態度を育成する。

ウ 地域で伝統的技術を守る人に直接触れ、その知恵や工夫を知り、自然と人間の関係を学ぶと共に、八丈島の自然や文化を守り大切にしようとする心情を育てる。

2 単元を通じた授業仮説

ア 実際の炭を見たり、製造工程の写真等からクイズ形式で、炭についての興味・関心を引き起こせば、その後の学習に主体的に取り組み、課題をもって解決していくであろう。

イ 身近な人と触れ合ったり、友人と意見を交流し合う場を学習活動の中に設定すれば、相手の考えを受け入れたり、認め合い高め合ったりする好ましい人間関係が育まれるであろう。

ウ 島の自然に密接にかかわる教材を取り上げ、体験活動を行えば、自分たちが暮らす島への意識を高め、地域社会の一員としての自覚をもつであろう。

3 地域の様子

八丈島は東京から南へおよそ284km離れ、八丈富士と三原山二つの山系から成るヒョウタン型の島である。周囲約58.9km、面積約69.52km²、人口1万人弱。

島には、小学校5校、中学校4校、高校1校あり、末吉小学校は全校児童32名という小規模校である。

一日1便の定期船や、5便の航空機が発着し、東京都内の流行の物はすぐに手に入れ易く、テレビも東京都内と同じ番組が見られる。携帯電話の普及等、都会の生活と変わらない部分と、島の自然を大切に生活している部分と両面を備えている。

4 児童の実態

男子4名、女子3名のクラスである。自分の思いや考えを全体の場面で表現することを苦手とする傾向にある。自信をもつことや、様々な方法を認めること等に配慮しながら表現力を高め、友人同士の心の交流を深めていきたい。

炭を使っている家庭が4軒。いろり、火鉢などで実際に自分で炭を使ったことのある児童は7名中2名である。家族とバーベキューで使ったということで七輪やカマドでの火おこしの経験のある児童はいない。炭はどのように作るか、知らない児童がほとんどなのでこの題材を取り上げる意義は大きい。炭の多岐にわたる使用方法を調べたり、炭のよさを見直したりする良い機会としたい。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点 (16時間)

時	学 習 計 画	各段階における仮説	検 証 の 視 点
1	炭クイズをする。 ●炭について知っていること気付いたことを知らせる。	●炭について、素朴な疑問をだすことにより、学習の方向付けができるであろう。	●これからの活動に興味をもち、見通しを立てることができたか。
2 3 4 5	炭の秘密を調べよう。 ●炭の効用 ●使い方いろいろ ●炭焼き小屋の様子 ●炭作りの工程 ●割り箸で炭を作ってみよう。	●自分で調べたい事を取り上げることにより、意欲をもって調べ学習に取り組むであろう。	●自分で決めた課題に自分なりの方法で進んで取り組むことができたか。
6	さあ！炭焼き小屋の探検に行こう。 ●どうなっているのかな？	●炭焼き小屋を前に、自分たちが出来る作業を考えることにより、体験活動への意欲が高まるであろう。	●炭焼きの工程の中から自分の体験したいことを見つけることができたか。
7 8 9 10 11 12	思い切り働こう。 ～炭焼き体験～ ☆①生木を切る。 ●☆②生木を運ぶ。 ●☆③炭焼き窯に生木をつめる。 ●○④窯をあたためる。 ●○⑤窯に火を入れる。 ●○⑥窯をふさぐ。 ●○⑦窯の火や煙を見る。 ●○⑧窯のすべてをふさいで火を止める。 ●○⑨窯を冷ます。 ●☆⑩炭を出し、切る。	●体全体を使って、思い切り働く体験をすることにより、働く人の苦労や知恵を、身をもって学ぶであろう。 ●友達と協力し合い、炭焼き名人から教えを乞う活動から、お互いの気持ちを交流し合い相手を大切にす気持ちや、尊敬する気持ちがもてるであろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">☆印・体験するところ ○印・見学するところ</div>	●自分でできることを見付け、進んで炭焼きの仕事の体験ができたか。 ●友達と協力し合って活動できたか。 ●手間ひまかけた仕事のこだわりを感じることができたか。
13	できた炭を使ってみよう。 炭を使って火おこし体験をする。【本時】 ●必要な物は何だろう。 ●どうやって火を起こすのかな？	●自分たちで作った炭を実際に使ってみることにより、充実感を味わい昔から伝わる島の産業を見直すことができるであろう。	●炭のよさを見つけることができたか。
14	他の伝統的工業の製品	●他地域へも目を開き、自分な	●炭焼き体験も含め、他地

15	<ul style="list-style-type: none"> も調べてみよう。 炭焼き体験をまとめる。 	りの方法で表現する活動により、友人のよさを認めたり、励ましたりできるであろう。	域の伝統的工業について表現することができたか。
16	<ul style="list-style-type: none"> 他地域の製品を調べてまとめる。 		

はじめて炭を切る体験をした子どもたち



火おこし体験に挑戦している子どもたち



6 本時の学習指導

(1) 題材 「自分たちで作った炭で火おこし体験をしてみよう。」

(2) 本時のねらい

ア 火おこし体験をすることにより、昔の人の知恵や工夫を感じ取ることができる。

イ 炭のよさを見付けることができる。

(3) 本時の授業仮説

自分たちで作った炭を実際に使っての火おこし体験を通して、昔の人の知恵を学んだり炭のよさに気付いたりできるであろう。

(4) 展開

	児童の活動	教師の支援・指導上の留意点	検証の視点(方法)
導入 (10分)	火おこし競争 レッツ・ゴー <ul style="list-style-type: none"> 持ちよった用具を確認し火おこしの準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 炭に火をつけてからお餅を焼くまでなるべく短い時間で行うことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 火おこしのために何が必要か、今までの経験を踏まえて考えているか。(観察)

展開 (30分)	火おこしを始める。 •自分たちで考えた方法で炭に火をつける。	•グループ毎に、適切な支援を心がける。	•友達と協力し合って活動しているか。 (観察)
まとめ (5分)	炭をおこしてみたの感想を発表する。	•発表の視点を明らかにする。 •児童の発表のよいところを取り上げる。	•火おこしで工夫した事から昔の人の知恵を感じ取ることができたか。 •炭のよさに着目しているか。 (発表)

(5) 評価

火おこしの方法を知り、炭のよいところを感じ取ることができたか。

7 授業仮説に対する評価

*仮説3 <島の自然に密接にかかわる教材～体験活動～地域への意識、社会の一員としての自覚>

炭焼き名人が、同級生の祖父であるという身近な存在。冬、今でも家で使っているという炭の作り方は、実は技術や経験がものをいう奥の深い仕事であるという認識。そして“大変な仕事”の中に、効率よく働くための工夫（木の切り方、生木の持ち方、運び方等）があるという発見。体験の中から、児童自ら気づき、感心し、尊敬できたことは意義深いと思う。

8 成果と課題

- (1) 身近な教材、身近な人との触れ合い、多くの学びが得られる炭焼き体験を通して児童はたくさんの先人の知恵を学ぶことができた。
- (2) 体験活動の中から友人の新たな一面を発見したり、炭焼き職人としての一人の人間の生き方を見つめ、尊敬する態度を見ることができた。
- (3) 新しいことへの挑戦で、自分から調べようとする気持ちをもち、試行錯誤をくりかえしながら一つのことをやりとげる充実感を味わうことができた。
- (4) 本事例を、今後は社会科としてではなく、総合的な学習の時間としての発展を考えていく余地があると考ええる。

<検証事例その4>

事例名 「パソコンを効果的に使った発表活動を通して、
自ら学ぶ意欲を高め、表現する力を高める指導の工夫」
中学校 第1学年 国語科

1 単元とねらい

(1) 単元名「きれいな海を見に行こう！伊豆大島と八丈島への旅」

(2) 単元のねらい

ア 伊豆大島と八丈島を題材に、自ら進んで必要な情報を集めまとめることができる。

イ グループごとによく話し合い、効果的な作品を作って発表することができる。

ウ コンピュータ・リテラシー（基本操作や環境設定の習熟）の向上を図ることができる。

2 単元を通じた授業の仮説

ア 各種パンフレット、新聞、ビデオ教材、インターネットなどを活用して導入を工夫することにより、自ら学び課題を解決しようとする意欲が高まるであろう。

イ グループごとの作品づくりを通して、お互いの考えを大切にしながら、共に高め合い、効果的な発表を行おうとする態度が育まれるであろう。

ウ ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフトなどを操作することによって、パーソナルコンピュータ（以下パソコン）に対する興味・関心が高まるであろう。

3 地域の様子

あきる野市は、東京40～50km圏に位置し、秋川と平井川の二つの川を軸として、比較的緩やかな秋川丘陵・羽村草花丘陵に囲まれる平坦部と、奥多摩の山々に連なる山間部からなっている。

本校学区はあきる野市の東端に位置し、住宅団地や工業団地と農業地域が混在している。また、本校は昭和48年に創立された、市内では比較的新しい学校であり、生徒数約500名、14学級の中規模校である。地域とかかわりの深いものとしては、例年9月に行われる二宮神社祭礼の「しょうが祭り」への参加がある。

4 生徒の実態

全体的にまじめで明るく素直である。与えられた課題や試験勉強については、比較的まじめに取り組むが、自ら進んで課題を見つけ、自分の力で解決していこうとする意欲に欠ける。また、他人の意見をよく聞いたり、自分の考えや気持ちを上手に発表することも不得意である。

そこで、新聞記事を読み、自分の考えや意見・感想をレポートにまとめる授業を進めている（NIE）。5W1Hを正確に読み取る練習からはじめ、2学期には、教科書の単元と関連付けて「戦争と子ども」というテーマで、レポートをまとめる活動を設定した。

同時に、パソコン室のLAN上でメールのやりとりをできるようにする、ワープロの練習を進め、短期間ではあるが、インターネットの体験も積んできている。

今後は、コンピュータ・リテラシーの向上を図り、「メールの交換」、「バーチャル会議室での意見交換」、さらに、インターネットを活用して、他の学校との交流を目指している。このような取り組みによって、生徒たちが主体的に学習できるような工夫を重ねていきたい。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点（7時間）

時	学習計画	各段階における仮説	検証の視点
1	学習計画の説明を受けて課題をもつ。 学習グループ（3つ）をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の内容や目標を理解することによって、今後の学習に対する意欲をもつであろう。 お互いに協力しやすいグループをつくることによって、意欲が高まり、積極的に課題に取り組めるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の学習内容や目標を理解することができたか。 お互いに尊重し合う意識が生まれたか。
2	各種パンフレットや資料を見て、伊豆大島と八丈島の概略を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> 資料を通して、伊豆大島と八丈島の概略を調べ、興味・関心が高まるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊豆大島と八島の概略を調べることができたか。
3	資料ビデオを見て、伊豆大島と八丈島の概略を調べる。	<ul style="list-style-type: none"> 映像に接することにより、見学地に対する学習意欲が高まるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊豆大島と八丈島の概略を調べることができたか。
4	グループごとに話し合い、旅行計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの興味・関心に基づいた見学地を選ぶことによって、より深く伊豆大島・八丈島を理解することができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が意欲的に話し合いに参加したか。
5 放課後	旅行計画を決定し、プレゼンテーションソフトにまとめる。 ※教師の技術的指導	<ul style="list-style-type: none"> パソコンを利用したプレゼンテーションの方法を学習することにより、学習活動への意欲を高めることができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲をもって、主体的に学習活動に取り組めたか。
6 放課後	インターネットで発表用の資料を集め、プレゼンテーションソフトを使って、発表のリハーサルを行う。 ※教師の技術的指導	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を効果的にまとめる能力が身に付くであろう。 発表方法を工夫することによって、新しい表現方法を身に付けることができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力して作品をまとめることができたか。 聞く側の立場で、発表を工夫することができたか。
7 （本時）	グループごとに発表する。 それぞれの発表に対して相互評価し合う。	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトを効果的に使うことにより、豊かな表現ができるであろう。 お互いに評価し合うことで、相手の主張を理解し、よさを認め尊重しようとする態度が身に付くであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いによい点を評価し、認め合うことができたか。

6 本時の学習指導

(1) 題材「パソコンを使って、伊豆大島・八丈島について発表しよう」

(2) 本時のねらい

ア パソコンを使った発表を通して、主体的に学習する意欲を高める。

イ お互いに評価し合うことで、相手の意見を聞き、尊重する態度を養う。

(3) 本時の授業仮説

ア グループで協力し効果的な発表を行うことを通して、主体的に学習する意欲が高まるであろう。

イ お互いの発表を評価し合うことで、相手の意見や感想を尊重する態度が養われるであろう。

(4) 展開

	学習活動	教師の支援・指導上の留意点	検証の視点(方法)
導入	本時の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 発表の進め方や課題を確認する。 評価カードの記入について説明する。 	発表の段取りができているか。(観察)
展開	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表する。 発表後、評価カードに意見や感想を記入する。 いくつかの評価カードをモニターに提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の進行を助けながら、使用機器の操作を行う。必要に応じて発表の補足をする。 発表のよい点を認めることができるように留意する。 机間指導をして、よい点を認めている評価カードを取り上げる。 	大島と八丈島について理解が深まったか。(観察) 協力して発表できたか。(観察) 各発表のよい点を記録することができたか。(発表)
まとめ	パソコンを使った発表についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> パソコンを使った学習活動の長所と短所を考えさせる。 	パソコンを使った学習活動に対して意欲を持つことができたか。(観察・記述)

(5) 評価

ア パソコンを使った発表を通して、これからも主体的に学習しようとする意欲が高まったか。

イ 相手の意見や感想を尊重し、相手の理解を深めようとする態度が養えたか。

7 授業仮説に対する評価

効果的な発表をするための方法や工夫について、生徒がアイデアを持ち寄り、話し合いを進めた。また、パソコンのプレゼンテーションソフトを用いたことで、インターネットやパンフレットから取り込んだ画像を発表作品に活用できた。このような工夫によって、旅行計画の発表が生徒の視覚に訴えるものとなり、大いに興味・関心を高めることができた。

それぞれの発表を聞いた後、発表活動の内容に対する評価をカードに記入し、カードに書

かれた内容を、モニター画面上で全員に提示することで、お互いの意見や感想をその場で交換することができた。他者の意見・感想に触れることにより、自分の考えを深めることができた。

8 成果と課題

- (1) 効果的な発表を行うための工夫を生徒自身が考え、お互いの意見を交換し尊重しながら、発表作品をまとめることができた。こうした製作過程の中で、自ら学び課題を解決しようとする意欲を高めることができた。
- (2) 作品を製作し旅行計画の発表をするにあたって、パソコンや情報機器を十分に活用することができた。これらの機器を自ら操作することによって、生徒のパソコンへの興味・関心を高めることにつながった。
- (3) 生徒が記入した評価カードを、すぐにスキャナーで取り込み、モニター画面上で全員に提示した。このことで、よりよい発表作品を作るにはどうしたらよいかという意見の交換が可能となり、お互いに高め合おうとする態度が見られた。
- (4) 生徒の回答（一部）
 - ア 内容がとても楽しく、よくわかった。思わず行ってみたいなと思うところもあったし、楽しい場面もたくさんあっていいと思う。
 - イ 本当に旅をしているみたいでよかったです。発表している人もけっこう楽しそうでした。また、わかりやすい説明でした。
 - ウ 八丈島の発表は、とても見ごたえがあった。お魚クイズも楽しかった。アロエ園やスキューバダイビングなど、行きたいところがいっぱいあって楽しかった。
 - エ スキューバダイビングの写真がとてもきれいで、本当に海の中に入っている感じがとてもよかったです。映像など工夫していて、とてもわかりやすくよかったです。
- (5) 今後の課題として、ワープロソフト、プレゼンテーションソフトの取り扱いを含め、さらなるコンピュータ・リテラシーの向上を図る必要がある。それは、コンピュータが、生きていく上で必要なツールの一つとなるからである。また、正確に理解し表現する力、意見や考え方を適切に伝える力を育て、総合的なコミュニケーション能力を高める指導の工夫も必要である。

<検証事例・その5>

事例名 「導入及び教材の工夫と体験的な実験によって、生徒の学ぶ意欲を高める指導の工夫」

中学校 第2学年 理科

1 単元名とねらい

(1) 単元名 「回路を流れる電流」

(2) 単元のねらい

ア 回路についての興味をもち、課題を興味・関心をもって調べることができる。

イ 自らの課題解決のために、発見したことを友達同士で工夫し、協力し合うことにより、お互いを尊重し合う態度が育成できる。

2 単元を通した授業仮説

ア 生徒が当たり前のことであると考えている現象が、実は当たり前のことではないということから、その現象に興味・関心をもたせることを通して、自ら学ぶ意欲や学ぶ力が身に付くであろう。

イ 目に見えない電気の性質を自分で体験することを通して、頭で理解するのではなく、自分の体で知ることによって電気についてより深く理解できるであろう。

ウ 友達同士で協力して工夫し合うことにより、お互いにより高め合っていくことができるであろう。

3 地域の様子

ア 狭山丘陵の西端を取り囲むように広がる台地の町である。町の南部には、米軍横田基地があり、飛行機の離着陸が多い。

イ 町の中心の箱根ヶ崎は、日光街道（八王子～日光）や青梅街道の交わる交通の要所として栄えた。特産の狭山茶の畑も多く見られるが、専業農家は少なくなっている。

ウ 保護者の教育に対する関心は高く、基本的な学習習慣の定着と学力の向上を期待している。保護者の多くが卒業生のために、学校に対する思い入れが強い。

4 生徒の実態

ア 生徒は、素直で人なつこく気軽に挨拶をする生徒が多い。

イ 生徒は、あまり他人と競ってまで、向上しようという意識が学習面において少ない。

ウ 学校生活の中で部活動を大切にしている生徒が多い。

エ 学習への興味・関心をもち、意欲的かつ粘り強く取り組む生徒が少ない。

生徒の一般的な傾向として、上で述べたように学習に対する興味・関心が薄い面があるが、

・授業（単元）の導入と教材・教具を工夫する。

・体験的な活動を設定する。

・身近な生活の中から課題を設定する。

ことによって、生徒は授業に興味・関心をもち、積極的に取り組むのではないかと考えられる。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点 (11時間)

時	学 習 計 画	各段階における仮説	検 証 の 視 点
1 2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> 回路によって電流の流れ方に違いがあることを実験を通して調べる。 (本時第1時) 	<ul style="list-style-type: none"> 導入段階を工夫することにより、自ら課題をもち、実験に意欲的に取り組むことができるであろう。また、様々な工夫をする姿勢が身に付くであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題をもつことができたか。 意欲的に活動しお互いに高め合うことができたか。
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 回路を流れる電圧と電流の間のきまりを実験を通して調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果を予想することにより、調べる意欲が高まり、実験の見通しをもつことができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学習を元に、しっかりと予想ができたか。
8 9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> 回路の種類によって、回路の各部分の電圧と電流の大きさが異なることを実験を通して調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して作業することにより、友達のよさを理解し、お互いを尊重する態度が身に付くであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いに協力できたか。

6 本時の学習指導

(1) 題 材 「回路のミステリーに挑戦する」

(2) 本時のねらい

ア 同じ電球でも、つなぎ方によって明るさが変わることが理解できる。

イ 興味・関心をもって実験に取り組むことができる。

(3) 本時の授業仮説

ア 授業の導入や教材を工夫することにより、生徒の「やる気」を引き出すことができるであろう。

イ 自分の力で電気を起こす実験を通して、目に見えない「電気」という教材を頭で理解するのではなく、体験的に身体で理解することができるであろう。

ウ グループで協力して実験を行うことにより、友達と協力する態度や相手の考えを尊重する態度が高まるであろう。

(4) 展 開

	生徒の活動	教師の支援・指導上の留意点	検証の視点方法
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題をつかむ。 実験の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日から、手回し発電機を使用して電流について学習することを説明する。 演示実験 手回し発電機に豆電球を接続して、実際に発電させて電球を点灯させて興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもって授業に参加しているか。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> プリントをもらい、今日の内容の確認をする。 実験を開始する。 実験を終了する。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントを配布する。 今日の実験の説明をおこなう。 実験道具を配布する。 机間指導を行い、アドバイスをおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力しているか。 課題をもって取り組んでいたか。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 最後の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験プリントを回収する。 	

(5) 評 価

ア 導入・教材の工夫によって、生徒のやる気を引き出すことができたか。

イ 協力して実験に取り組むことができたか。

ウ 他の人のよい方法を取り入れて工夫することができたか。

7 授業仮説に対する評価

*仮説1 <導入・教材の工夫～興味・関心のもたせ方>

この単元は、電流という目に見えないものについていかに生徒に興味・関心をもたせるかということが、導入にあたり最大の問題となった。今までの教科書で紹介されている方法では、家庭用の100V-100W、40Wの電球を直列と並列に接続して、電球の明るさの違いから生徒の興味・関心を引き出そうという設定が一般的であったが、本校の生徒には家庭で電球をあまり意識して使用している様子がないため、この方法では関心を引き付けることができないと思い他の方法に変えることにした。

そこで、導入として、ほとんどの生徒が使っている自転車に付いている発電機を自分で回すとどのくらいの電気を起こすことができるか挑戦させることによって、興味・関心をもってくれるだろうと考えた。実際に授業に取り入れて、試してみたところ生徒は、少しでも他

の友達より多くの電気を起こすことに夢中になって取り組み導入として非常に効果的であることが検証できた。

*仮説2 <体験学習の工夫～見えないものをいかに体験させるか>

電流・電圧は、実際に目に見ることができないので電圧・電流計を使用して定量的に測定し、測定値の大小でその大きさを判断していたが、この方法だと電圧・電流の理解に対するインパクトに欠けていた。しかし、手回し発電機を使用することによって、同じ電圧でも流れる電流量によってハンドルを回転させる力がずいぶん違うという生徒自身の体験から、電流という概念に迫っていくアプローチの仕方を身に付けさせることができた。

*仮説3 <他の生徒とのかかわり～好ましい人間関係の育成について>

手回し発電機を使用して、グループごとに協力して課題に取り組む場を設定することによって、それぞれの生徒のよい面や欠けている面をお互いに補いながら、ともに高め合い認め合っていく環境ができた。

8 成果と課題

今回の仮説の最大の目的である、生徒の興味・関心を引き付ける導入方法の工夫では、手回し発電機を効果的に教具として授業で使用したことによって、ほぼその目的を達成できたと考える。しかし、授業は導入だけの興味・関心で終了するものではない。教材は、一人一人の生徒が系統的・体験的に自らの思考過程にそって理解してこそ意味のあるものになる。単元全体にわたって生徒が興味・関心をもち続けながらゼネコンを使って系統的にいかに関与させていくかが、今後の課題である。また、このような授業を継続して展開していくことが、生徒にとって「生きて働く力」を育む原動力となると考える。

VII 研究の成果と今後の課題

本研究部会ではへき地の特性、児童・生徒の実態、育てたい児童・生徒像などについて話し合いを深め、11年度研究主題を「体験的な活動を生かし、児童・生徒の生きる力を育む指導の工夫」とした。そして、この研究主題に迫るために研究のねらいを「児童・生徒一人一人が、学ぶおもしろさや感動を味わい、自ら考え判断し主体的に問題解決していく態度・能力を育てる」と掲げ、以下三つの仮説を立て検証してきた。

1 研究の成果

*仮説1 <興味・関心を引き起こす導入を工夫することにより、自ら学び自ら課題を解決しようとする意欲が高まるであろう>について

- (1) 導入で教育機器を用いて視覚に訴えたり、一人一人に実験や採集など体験的な活動を取り入れたり、身近な地域素材を提示したりすることで、疑問、驚き、発見、感動が生まれ、そこから学習のおもしろさを実感させられることが確かめられた。
- (2) 体験的な活動を生かした導入の工夫は、既習の経験を振り返ったり、課題意識をもたせるために有効であり、もっと調べていきたい、うまく作りたい、試してみたいといった主体的な学習につながっていくことを目の当たりにすることができた。

* 仮説 2 < 学習活動の中に、他の人たちと協力したり意見交換する場を設定することにより、共に高め合っていくとする態度が育まれるであろう > について

- (1) 調査や学習実験、物づくりなど体験的な学習からなる一人一人の学びを互いに交換し、グループでまとめることによって児童・生徒が協力して教え合い、共に学び合う場が自然に作られた。これらの学習が繰り返されることによって、共に高め合う態度が培われていった。
- (2) 発表を聞く側が肯定的評価になるように、デジタルカメラに収める、メッセージカードに書いて送る、クイズや質問コーナーを設けるなどの工夫をすると、双方向の学習になり、共に学び合う場として効果があった。
- (3) 共に高め合っていくとする態度の育成は、各教科以外の生活の場でも、他の児童・生徒と前向きなかわりをもとうとする態度につながるということが明らかになった。

* 仮説 3 < 地域に根ざした体験的な活動を取り入れることによって、より豊かな感性が育まれ、地域社会の一員としての自覚をもつことができるであろう > について

- (1) 地域素材の資料・情報収集、採集などを通して身近な人・物とのかかわりが深まり、地域のすばらしさを見直すきっかけとなった。
- (2) へき地の児童・生徒がややもすると不足しがちな発表能力を育てるうえで、地域の人とのかかわりが、その能力開発の場面ともなり有効であることが明らかになった。
- (3) 地域のよさを見直す機会が、地域社会の一員としての自覚につながっていくことを共通理解することができた。

2 今後の課題

- (1) 体験的な学習活動の推進を目指した年間指導計画を作成し、検証授業を引き続き行い、子どもにとって学ぶおもしろさや感動を味わうことができる授業へと質を高めていく。
- (2) 授業の形態を工夫し、複数教員による協力教授や隣接学校との交流学习などを試行していくことが必要である。
- (3) 事例によっては、総合的な学習の時間としての発展を図っていく余地があると考える。

参考資料

「おたあジュリア」…… 豊臣秀吉の朝鮮出兵のときに、キリシタン大名西小西行長によって我が国に連れて来られた貴族の娘「おたあ」のことである。自らも洗礼を受けて「ジュリア」と名乗る。

その後関ヶ原の戦いで敗れた小西行長から徳川家康のもとへ身柄を移されたが、改宗の命令に従わなかったため大島へ流された。さらに、新島、神津島に移され、神津島には墓とされる石塔が残っている。

みなし
「三田氏」…… 鎌倉時代から戦国時代にかけて現在の青梅市に当たる地域を支配。御岳神社、塩船観音など多くの寺社。仏像等を修理・復興した。1563年、小田原の北条氏によって攻め滅ぼされる。